

エコプラザの検討振り返りと情報提供

2016.10.20作業部会
塩澤誠一郎

1

第三期 エコプラザ（仮称）の方向性
ごみの減量化を市民に促す
それを創造的に行う拠点

- ・プラットフォームの空間を生かしたこれまでの実践により、**創造的な方法**で、多くの市民が関わりを持ち、そのことが市民の意識を変えていく手応えを感じることができた。
- ・今後もこの方向性を追求していく。

2

第四期 検討の方向性
地域力の向上に取り組むことから、
低炭素化、まちづくりにつなげる

- ・創造的な取り組みがコミュニティを育む。

3

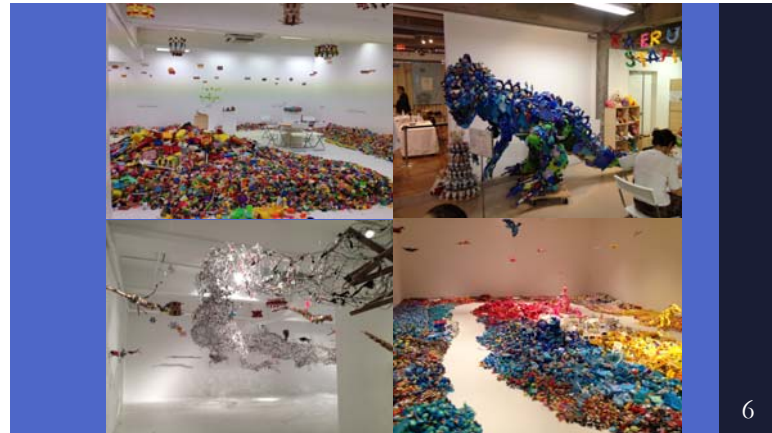
すてられたものを創造的にあつかう達人

- ・2012年9月6日 「藤浩志の美術展 セントラルかえるステーション」見学（アーツ千代田 3 3 3 1）
- ・2014年2月17日 **大月ヒロ子**さん
- ・2014年6月17日 **藤浩志**さん
- ・2015年3月18日 「クリエイティブリユースでアート！」見学（調布市文化会館たづくり）

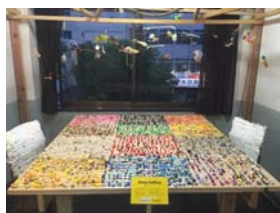
4



5



6



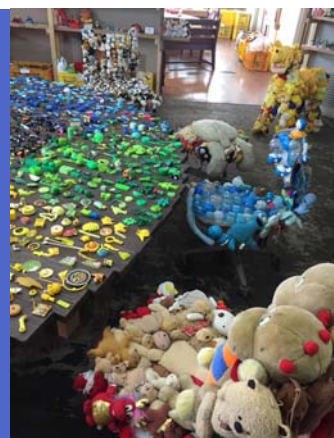
ポリプラネットカンパニー

家庭から排出される廃棄物素材を利用して、新しいライフスタイルを提案するネットワーク型のカンパニーです。

茨城県日立市千石町1丁目4-19

<https://www.facebook.com/polyplanetcompany/>

7



8



9



<https://kenpoku-art.jp/>

10

- ・架空の会社という入口をつくる。
- ・普段と違う状況をつくる。
- ・そこに惹かれて人がくる。
- ・おもちゃというだれでも触れやすい、カラフルな魅力的な素材がある。
- ・だれでも素材を使って、商品開発することができる。架空の社員になりきる。
- ・その経験によって、それぞれの人が、それぞれに廃棄物について考える。かもしれない。

11



IDEA R LAB

2013年8月 オープン
 岡山県倉敷市玉島中央町
 クレイティブリユース 廃材と循環するモノ・コト・ヒト 出版
 2016年5月1日 訪問

12



13



14



マテリアルライブラリー

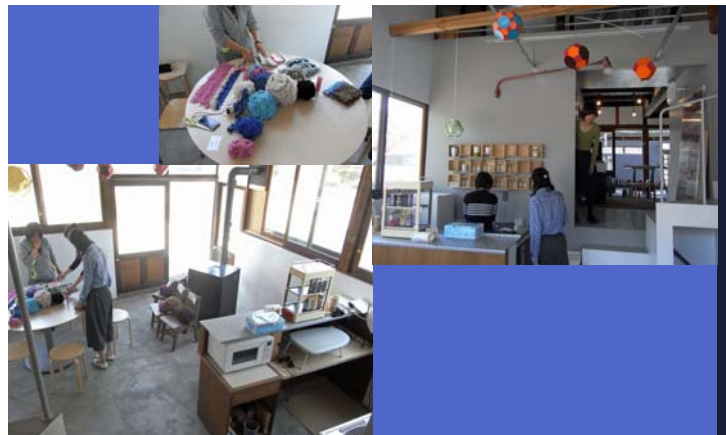
15



16



17



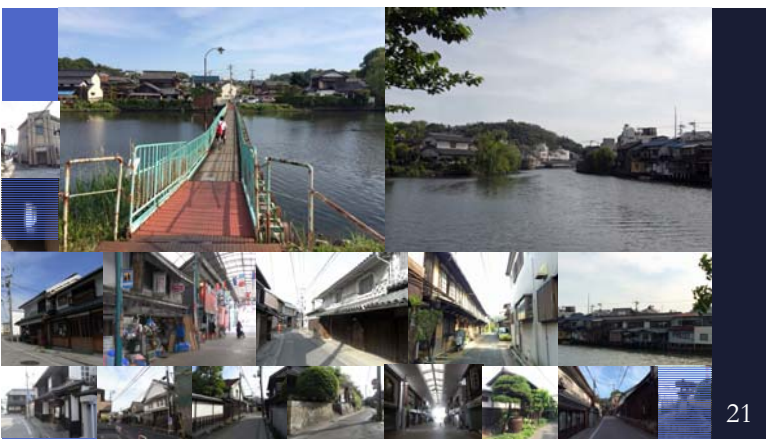
18



19



20



21

- ・マテリアルライブラリー | お店だった建物をリノベーション。
- ・お店だったことから、もともとまちとの親和性が高い。まちに開いている。入りやすい。
- ・リノベーション自体、廃材を収集、活用して参加者を募り、ワークショップとして実施。→**つながる仕掛け**
- ・多彩なワークショップを年間通じて開催。近隣の人ばかりでなく、周辺地域からも参加者が訪れる。
- ・3Dプリンターなどデジタル工作機器を設置し、**ファブ機能**を設けたことで、**モノづくり系の人たちも惹きつけて**、遠方からも利用者が訪れる。→**共感コミュニティを形成**

22

- ・レジデンス機能もあることから滞在しながら活動できる。ワークショップの実施、モノづくり、作品製作などラボを訪れる目的は人によって様々であるが、一緒に滞在することで交流が生まれ、つながりが育まれる。→**風の人が地域にもたらす可能性**
- ・玉島という地域に魅力があり、滞在する人はまちを楽しんでいる。→**地域の魅力が施設の魅力を高める**
- ・地元の人と、遠方からラボを訪れる人、その間を大月さんがうまく取り持っている。→**取り持ち役としての支配人**

23

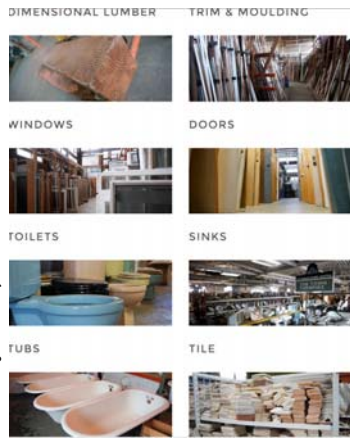


リビルディングセンター

24

地域への働きかけ

- ・「クリエイティブリユース—廃材と循環するモノ・コト・ヒト」で紹介された、「リビルディング・センター」(米国オレゴン州ポートランド)
- ・建材の再利用促進を目的に、寄贈された中古の建築材料、リフォーム用素材をストックし、手ごろな価格で提供している。



25

- ・「コミュニティが私たちの使命、素材はその手段」
- ・提供される素材は地域の人たちの寄付
- ・運営経費以外の収入は、地域に還元
- ・ボランティアスタッフが運営を支える
- ・材料の扱い、道具の扱いを教えるワークショップを実施。ボランティアスタッフがレクチャー
- ・公共空間の整備に必要な資材を提供
- ・重機を使わない建物の解体を支援
- ・コミュニティ形成事業を支援
 - ・市民の求めに応じて、コミュニティ形成に働きかける（地域課題解決のための）プログラムを提供。

26

- ・古材の販売
- ・デザイン
- ・カフェ
- ・素材を救済
- ・デザインには世界を良くす

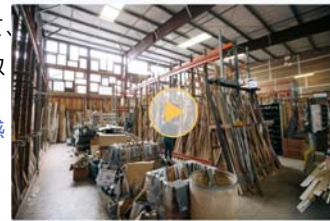
8月から工事が始まったリビセンでは、主に古民家から古材や建具などを救済（レスキュー）して販売をしています。新築のときより、いま日本ではたくさんの古い建物がその役目を終え、その土地にあたらしい役割を求められ解体されています。リビセンでは、そういった建物から建具や床板をレスキューして販売していくことで、解体が育んでくれた古くてつつましいものを次の世代に繋げていきたいなど、そう思っています。そして、あたりまえのように古材が身近にある、そんな暮らしや文化をつくっていきたく、まずは、諏訪から、そして全国に展開して、日本全国で日本の古いものを守っていきたくです。



27

廃材利用で豊かな暮らしを。信州諏訪にリビルディングセンターをつくる！

- ・信念を持って、
- ・自らリスクを取り、
- ・人々の共感を得ながら、取り組む。



▼ 集まった支援総額
5,434,900円
目標金額 23,000,000円

▼ 参加人数
447人

◎ 募金終了まで残り
終了

世界一美しい国、アメリカのオレゴン州ポートランドにある建築材料のリサイクルショップ、リビルディングセンターを信州諏訪につくりたい。いま、コレとして活動しているメンバーが10名、賛同と応援される文化をつくりたい。より豊かな日本社会をめざしていけることを願っています。

このプロジェクトは、2014/08/13に活動を開始し、447人の参加により5,434,900円の資金を集め、2014/09/26 23:59に目標を達成しました。

<https://camp-fnc.jp/projects/view/9801>

28



Chika-ba ちかば

国上市谷保

<https://www.facebook.com/yaho.chikaba/>

工房 (Chika-ba 提供)

29

- ・入会金 1 万円、月会費 5,000 円を支払うことで、誰でも利用できる**工房**。
- ・会員が工房を利用する際は、単なる利用者ではなく、その日の工房を取り仕切る「**工房長**」になる。**工房長制度**
- ・工房長は、SNSを通じて工房の開室を告知し、**体験利用者**に機械の操作方法を教えたり、ものづくりの**相談に来た人**の相談に応じたり、**見学に訪れた人**などの対応をする。
- ・会員はお客様ではなく**工房を運営する当事者**。工房は、一人で黙々とものづくりを行う場ではない。

30

- ・オーナーが工房に備えた機器はレーザーカッターのみ。
- ・他の機器や機材は会員が自ら備えた。各自がここにあるといいと思うものを、自分で判断して持ち寄り、[会員同士シェア](#)して利用。
- ・機材のメンテナンスも利用する会員が自分で行っている。
- ・工房長制度を導入することによって、[工房長同士が補い合う関係、コミュニティ](#)を築いている。



31

共感コミュニティ

- ・共感の種 | ものづくり
- ・開かれた場 | 工房
- ・つながる仕組み | 工房長制度

32